会議概要

2009 年 9 月 12 日～13 日、「第 9 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2009 in 横浜」が開催された。参加者は 2,900 名とこれまでの最多となり、大盛況のうちに終了した。CRC の「治験・臨床試験を含めた臨床研究」現場での活躍のため、CRC の呼称を「治験コーディネーター」から「臨床研究コーディネーター」に改める等、環境整備が進められている。本年 4 月には「臨床研究に関する倫理指針」の全部改正が施行され、臨床研究の適切な実施のための体制整備が促進されている。そこで、今回の会議はメインテーマを「臨床研究コーディネーターのこれから～Just Time for Action～」とした。

特別講演を国立がんセンター中央病院　藤原康弘先生にお願いし、「臨床研究から日常診療への“トランスレーショナルリサーチ”：我々は医師主導治験、高度医療評価制度を如何に使っていくべきか？」というテーマで講演があった。藤原先生は「医療機関の体力作りがライフサイエンス領域での国際競争力獲得には必要である。自ら医療技術開発の真の『プレーヤー』となることが責務である。」ことを強調した。

また、教育講演として、文部科学省高等教育局医学教育課の新木一弘氏から「臨床研究支援のための人材育成」、厚生労働省医政局研究開発振興課の佐藤岳幸氏から「我が国の医薬品等の開発推進に向けた臨床研究の役割～行政の取組み～」のテーマで、国の取り組みについての講演があった。

会議は、①教育講演、シンポジウム、企画及びランチョンセミナーと②一般演題の大きく分けて 2 つのセッションで構成された。いずれの会場においても、様々な専門家や色々な立場の方の講演・発表をもとに、活発な討論がなされた。

一般演題は 185 演題の発表があり、今回はポスター発表に加え一部の演題は口演発表を行った。ポスター討論・口演では、意見交換や情報交換が活発に行なわれた。さらに、日本臨床薬理学会認定 CRC 及び座長の投票により「優秀演題賞」の選考があり、閉会式で 3 演題が表彰された。CRC の今後の更なる活躍への期待とともに幕を閉じた。次回の第 10 回会議は、2010 年 10 月 1 日～3 日に別府国際コンベンションセンターで開催される予定である。

（会議代表：米坂知昭）